

8:50沢が大きく三つに分かれる。左と中の沢は荒れており、本流である右の沢が一番土砂の押し出しが少ない。本流にルートをとる。

すぐに5mの滝。そしてそのすぐ先に20m二段の滝。下部がナメ状になっていて、ホールドも多く、直登する。このあたりまでくると、この沢は全く平凡であろうという先入観など吹き飛んでしまい、ひょっとしたら滝の連続する結構おもしろい沢なのではないかという期待感が湧きおこってきた。

両岸に壁が立ちはだかるようになってゴルジュとなる。沢は急傾斜となり、ぐんぐん高度をかせいでせゆく。ただ、押し出してきた不安定な土砂がいっぱいつままっているので浮石に細心の注意を払いながら進む。

10mの滝を越え、沢が大きくカーブすると、まるでガレ場を思わす感じで岩がゴロゴロしている所に出た。これはなんとも荒れ沢だわいと考えていたら、前方にカモシカの姿が確認できた。

ガレ場状の部分を超した所で小休止。ルートを協議する。直進する沢は細いうえ水の流れもない。左手から合流する沢をつめるのが合理的のようだという結論となって左の沢へとルートをとる。

この沢は細いルンゼ状で、その中に5~10mクラスの滝を次々にかける。いずれの滝にも適当なホールド、スタンスがあり、すべて直登する。

左へ左へとルートをとる。10:10遡行終了となるが、三倉山から上ノ坪部落へ下る登山道(相当に荒れている)に出るまでは、小尾根ぞいに30分程ヤブこぎの必要があった。

(記・

[タイム] 中ノ坪(7:30)→番屋川出合(7:45)→遡行終了(10:10)

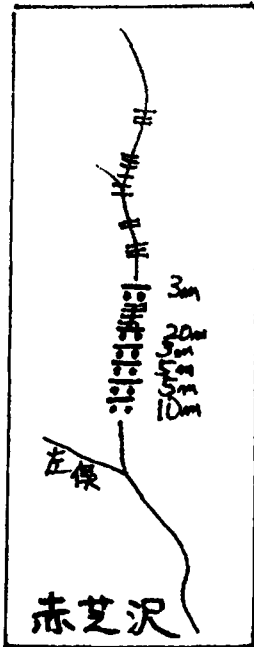
### 3. 七ヶ岳周辺の沢

会報No 19に、七ヶ岳南面の2本の沢を紹介した。ここでは、北面の沢3本を紹介する。

赤芝沢

1985年8月1日

姥神林道分岐に車を置いて、赤芝沢に入る。8:45遡行開始。ずっと平凡な河原が続く。行けども行けども河原である。



10:15二俣。ここまで一時間半。何もなかった。右俣に入る。

右俣も出だしは今までと特に変わりなく、「ああ、この沢はハズレか」と溜息をつきたくなる頃になって滝が出てきた。まずは10m二段滝。下部がナメ状で、ホールドも多く、快適に直登する。

上に出たら、すぐ5mの滝が続く。これも直登。その上にも更に5m滝。ここは右岸をシャワーで越える。今まで何もなかったのが一変して連瀑帯である。

小滝をはさんだあと、いよいよこの沢最大の20m滝。真中やや右よりを一部シャワーで直登する。ホールド多く、快適に登れた。

長い河原歩きのと、いきなり現われた連瀑帯もこれで終わりである。沢の傾斜もゆるやかになり、沢幅も狭く、やがてヤブがかかってくる。水も急に冷たくなってきた。11:10このへんが潮時と、遊行を切り上げ、姥神沢の下降に移るべく、右手の尾根めざしてヤブコギに入る。20分で尾根に出た。

【タイム】 赤芝沢遊行開始(8:45)→二俣(10:15)→遊行終了(11:10)→尾根(11:30)

### 姥神沢

1985年8月1日

尾根から5分も下ると小さなルンゼ状となる。そして更に10分で姥神沢の本流に出る。途中、2mのハング滝があり、これは幸先がよいと、ひそかに先を期待して、下降開始。

ところがである。姥神沢は全く平凡なのである。最初のうちこそ、小滝が出現したものの、あとは沢が急傾斜になっているというだけで、滝など全くかからない。これだけ傾斜がきついことから、いつか滝が出てくるのではないかと、むなしい期待をだいて1時間余。とうとう今は荒れて車の通行などおよびもつかない姥神林道の橋に出ってしまった。下降終了13:05。

【タイム】 姥神沢下降開始(11:30)→下降終了(13:05)

